10　鏑木清方

《讃春》六曲一双

昭和八年（一九三三）
絹本着色
本紙各二〇二・四×四三四・二

本作は昭和の大礼を奉祝して三菱財閥の岩崎家より献上された五双屏風の一つである。美人画や情緒ある下町の風俗を好んで描いたことで知られる鏑木清方（一八七八～一九七二）は、大礼を祝う屏風の画題として右隻には皇居前広場で語らう女学生を、左隻には隅田川河畔に繋がれた船上で暮らす母子の姿を選び、一双の屏風に全く異なる二つの情景を対比させるように描いた。タンポポを摘む女学生と新緑の美しさ、船上の暮らしの中にも桜の花枝を活けて愛でる趣に、それぞれに等しく春が訪れた喜びが表されている。さらに、本作には当時の流行と新しい景観が描き込まれている。例えば、セーラー服である。女学生の服装は着物に袴であったものが、昭和初期には全国規模で洋装の制服に改められ、その中でセーラー服が最も好まれて、女性の洋装が一般的に広がるきっかけともなった。また、左隻の船にさりげなく置かれた鉢植えはキク科のシネラリアで、昭和初期の代表的な鉢物として流通した。そして、ひときわ背景に大きく描かれているのは清洲橋である。清洲橋は、関東大震災後の帝都復興事業の一環として永代橋とともに建設され、昭和三年三月に完成した橋で、優美なそのデザインはドイツのケルン市のライン河にかかる吊り橋を参考にして、建造には当時の最先端の技術が駆使された。清方は、新しい時代の幕開けにふさわしい題材として、震災後に力強く復興した東京の象徴であるこの橋を選んだのであろう。構想から四年をかけ、本作が完成したのは昭和八年七月のことであった。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

大礼 ― 慶祝のかたち
三の丸尚蔵館展覧会図録No.85

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　黒川廣子
発行　公益財団法人　菊葉文化協会
令和元年九月二十一日発行
©2019, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan